

手に汗握る運動会でした

仲嶺 真弓

10月15日、天候にも恵まれ、4・5歳児の運動会が終わりました。0～3歳児クラスの保護者の方、保育協力ありがとうございました。多くの職員で4・5歳児の子どもたちを見守ることができました。

毎年、運動会は個々の子どもたちの成長がリアルに見えるドラマの連続です。保育士は、運動会は保護者に「できる・できない」の視点で子どもたちを見てもらうことに重点をおくのではなく、子どもたちが自分で決めたことにどう取り組むのか、取り組みに向かう表情と姿勢を見ることに視点を置いてほしいと思っています。そして、日常とは違う雰囲気の中で、個々の子どもたちがどんな表情を見せるのかを知る機会でもあると考えています。だから、どんなシーンでも、子どもたちが織り成すドラマであると感じるし、どの子に対しても心からの応援をするあまり、いつのまにか握りしめている手に汗がにじみ出ていました。今年の運動会も拳の汗と感動の涙をこらえるのに力が入りました。

運動会終了後に、ある保護者が「なぜ、運動会で園長挨拶しないの？」という素朴な疑問を問いかけてくれました。確かにここ何年かは運動会職員挨拶は園長ではなく、以上児主任が担当しています。一般では園長が挨拶することが主流なので、そう感じられたのだと理解しました。そう言えば、つばさはなぜ主任挨拶で終わるのか改めて話したことがないことに気付いたので、お話しするいい機会をいただけたと思い書き添えることにしました。私自身は、運動会の挨拶は、日頃から子どもたちと関わり、その関わりを通して、どうしても保護者に伝えたい思いがあるという職員がしてもいいと考えています。それだけ日々の保育現場の中で子どもたちを見守ってきたという思い入れがあるからこそ、保護者に伝えたいこともより、心を込めて伝えることができる。それがこの園で働く職員の姿勢でもあると思うからです。園長挨拶は、“お弁当と一緒に食べよう会”でも話できると思っているので、私自身は、“運動会”か“お弁当食べよう会”のどちらかで挨拶したいと考えているので、それもまた他園とは違うけれど理由があることを知っておいてもらえればと思います。

【満員御礼！！ つばさマジックショーへのご来場、ありがとうございました！！】

10月30日（日）に予定通り、育む会主催 つばさマジックショーを開催しました。今年は4回目の開催となりました。4回目にして初の大人前売りチケット完売という声に、嬉しい悲鳴半分、プレッシャーの悲鳴半分の職員演者メンバーでした。前売り・当日チケットでの来場者は、114名。それにプラスして未就園児（つばさっ子も含めて）がいたので、総勢おおよそ150名の参加でした。

昨年は開園4年目にして卒園児の参加が多かったことが印象的でしたが、今年は、さらに多くの卒園児が友達と一緒に参加していました。また、地域の小学生がお金を握りしめて「マジックショーのチケットください。」と買いにくる姿を見て、何とも言えない嬉しさがじわじわとこみあげてきました。その他、子育てひろばや園庭開放、園見学に来られた地域の方の姿もありました。そんな状況を聞いて、どの人も満足してもらえると不安も通り、演者・スタッフ職員は当日の朝も8時に集合し、最終リハーサルを重ねていました。直前は失敗も笑いに変えるくらいに私たち自身も楽しむことを忘れずにマジックショーがスタート。ジャンピエール＝サトルさんの手先までしなやかなマジックと、合間にピエロ役で登場した職員のコミカルマジック劇場（姉妹園のアトム職員は「サザエさん劇場」・つばさ職員は「トイストーリー + ディズニー劇場」）は場を沸かせてくれました。なんとといっても今年も、アトム保護者OBのお父さんが、マジックショーの舞台セットを手作り協力してくれたことにも感謝です。舞台を見守りながら、観客席に目をやると、子どもと大人の笑い声と笑顔にキラキラした瞳が見られました。この日1日休みがなくなっても、でも地域に向けて自分たちができることをしようと動くのが自慢の職員です。最後に拍手で労っていただけたことがなにより嬉しく思いました。

